

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300406		
法人名	(有)ハートコネクト		
事業所名	グループホーム さくらの樹		
所在地	佐賀県鳥栖市柚比町2263-1		
自己評価作成日	令和4年3月8日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『皆さんとともにつくる 楽しいわが家 明るい家族』を理念とし、いつも明るく笑顔で、また家庭的な温かい居心地のいい場所である事を目指しています。お一人お一人の役割や出番があり、それぞれが主役となるように、日々心掛けて支援しています。コロナ禍で外部の方々との交流は減少してありますが、居室とサンデッキからの窓越し等での面会や、皆さんの日々の生活の様子をSNSで発信する等して、ご家族の皆さんにも喜んで頂いています。希望によりターミナルケアも実施し、人生の最後の支援に携われる事の深い意味を胸に、ご家族、職員、医療機関等と連携し、チームで支えながら、安心して最期を迎えられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームにはにテラスが設置してあり、外気浴を行いやすい環境となっている。理念を念頭に、家庭的な雰囲気の下、入居者それぞれが、掃除や洗濯物たたみなどの役割を持ち、達成感を感じながら生活できるように支援されている。毎月、多くの写真を撮り、便りとして家族へ送付しており、SNSを活用して家族や知人が入居者の様子を知る機会を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	西館	東館			西館	東館	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『皆様と共につくる 楽しいわが家 明るい家族』の理念を玄関ホールに掲げて、毎朝出勤時に目にして仕事に入るように努めています。	『皆様と共につくる 楽しいわが家 明るい家族』の理念を玄関ホールに掲げています。入社時には理念や運営方針と共に配布しています。	玄関に理念を掲げ、入社時に確認できるようにされている。また、会議で理念を読み上げている。入居者が楽しめるように入居者の能力にあった支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は近隣の住民の方々、保育園、小学校、ボランティアの方々等との交流は盛んでした。最近では施設近くに住居の方でお散歩中に知り合いの方と遭遇して喜んで頂いた事もありました。	近隣の田畑を借用し野菜作りをしています。採れた野菜のおすそ分けを通して近隣の方々との関係性を築く事も出来ています。また、夜中、施設前に倒れて動けなくなっておられた方を助けた事もありました。	野菜を作っており、おすそ分けを通じて地域住民とのつながりを作っている。しかし、コロナ禍のため、地域住民との交流は限られている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の独居高齢者の見守りや台風などの自然災害時に避難場所として施設を提供できるよう連絡をし合えるような体制をとっています。	コロナ禍の為、施設内の見学対応は出来ませんが、電話相談にはいつでも応じられるように努めています。また『子供110番の家』のご協力をさせて頂いており、出来る限り開放的な施設であるように努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長様、民生委員様、包括支援センターの担当者様、ご家族様にご参加頂き、様々な質問やご意見を頂き、サービスの向上に努めています。	コロナ禍の為、書面での開催が多いですが、書面配布後はお電話でご意見や質問に答え、後日議事録も配布するように努めています。	コロナ禍の状況に応じて、対面、書面で開催している。会議では写真を用いて入居者の様子を伝えている。しかし、家族へ議事録の配布はしていない。	運営推進会議の議事録を家族に送付するなど、家族へ周知されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者の方とは、いつでも相談や助言を頂ける関係となっており、些細な質問や相談にも丁寧に対応して頂いています。	市役所高齢福祉課の職員の方々とともに連絡が取りあえる関係にあり、安心して相談が出来る体制になっています。	市の担当者と相談ができる体制ができています。市の軽体操や見守りネットワークなど、事業の取り組みの相談があれば対応し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束について意識しながら、ケアに取り組んでいます。マニュアルや指針も作成し、全職員で理解共有に努めています。	身体拘束をしない介護を普通としており、人としての尊厳を最重要視し、自由な共同生活を楽しんでもらうように常に意識しています。	身体拘束は行っていない。身体拘束委員会は運営推進会議で実施しており、議事録を整備している。身体拘束をしないような環境作りを意識している。	

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	行き過ぎた対応から感情的になり、不適切ケアに繋がる事を意識して、一定の距離感を持ちながら対応して行くように職員全員で気掛けています。	馴れ合いの関係となり、行き過ぎた対応から、不適切ケアに繋がることを研修資料として取り入れ、見過ごされる事の無いように全職員で意識しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要性も出てくると思われる為、積極的に学び、理解し、活用できるように努めています。	今後、必要性も出てくると思われる為、積極的に学び、理解し、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は特に丁寧に説明し、都度、質問や疑問、不安が無いかを確認するように努めています。	契約時に限らず、疑問や質問などはいつでも話して頂くように努めています。改定時にも文書や口頭で説明し、同意を頂く様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には積極的にお話をする機会を作り、意見や要望もお尋ねしています。また、意見箱も設置しています。	日頃から話しやすい関係づくりに努め、得られた意見や要望は上司に報告し、判断、運営に反映するように努めています。	家族からの提案を受け、テラスでの面会を実施するなど、家族の意見を反映した運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と話せる状況を日常的に作っており、管理者と代表者も日々の報連相を日課としています。また、代表者も出勤しており、全体会議にも参加し普段から話しかけやすい環境にしています。	日々の業務日誌についても管理者と代表者は毎日、目を通すシステムになっており、職員の意見や提案をスムーズに反映できるように努めています。普段から報告連絡相談の流れも出来ています。	毎月全体会議を実施し、職員の意見や提案を確認している。また、必要に応じて、個別に話を聞く機会を設け、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に応じて無理なく勤務が出来るように努めています。賃金の引き上げについても定期的実施し、更に向上心を持って充実した勤務が出来るように努めています。	年に2回程、職務自己評価シートで自身の仕事ぶりを振り返る機会を設けています。また、定期的に職員と面談をする事で抱え込んでいる悩みや問題が無いかを知るようにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の際も勤務扱い、学費負担とする事で、積極的に資格取得が出来るように努めています。	外部の研修の機会は減少していますが、オンライン研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、コロナ禍前は管理者や職員はお互いの施設を見学したりして、ネットワーク作りにも力を入れていました。	コロナ禍で積極的な交流は出来ていませんが、電話などで相談、交流する機会があり、お互いの質の向上に努めています。コロナ対策や対応などについても常に情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始までに可能な限りご本人にお会いしたり、出来ない場合も細かい情報を得る事で早期に信頼関係が出来るように努めています。	ご入居前の情報だけでなく、ご入居後の情報も細かく記録に残し、全職員で情報の共有に努め、早期に安心を確保出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学相談の時点からご家族の心配事などに耳を傾け、寄り添うように心掛けており早期の信頼関係作りに努めています。	特にご家族が懸念される内容については、職員と情報を共有し特に重要点とし、改善できた際は細かく経緯まで伝えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援については、様々な方面からも情報を得たり、密に情報を共有しながら利用の検討を行うように努めています。	最優先されるべき支援を見極め、多方面のサービスも含め、いくつかの選択肢を提案するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として常に尊厳を持ちながら、これまでの経験や能力や知識を引き出して頂けるように心掛けて支援しています。	大先輩の入居者様には、それぞれが多くの経験を持たれており、様々な場面で教えて頂く事も多く、昔ながらのやり方等を学ばせて頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外食、行事の際は特にご家族にも参加頂き、一緒にご本人を支える関係となるように努めています。	特にこだわりがある物事に関しての対応はご家族とも情報を共有しています。ご本人手持ちのお金、帰宅願望時などは電話などで一緒に対応を下さり、安心して頂いた事もありました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な関係を継続されるようにコロナ禍でも状況を考慮しながら、出来るだけ面会が出来るように工夫し、ホールでの面会や窓越しの面会を続けています。また、インスタを通してはがきやプレゼントが届いたメッセージを発信する事も支援しています。	インスタグラムを開設し、ご家族に同意を頂いた上で入居者の皆さんの日々の画像や動画を投稿しています。コロナ禍でもあり、ご家族様、特に遠方のご家族様にはとても喜んで頂いています。	SNSを通じて入居者の様子を家族や馴染みの人に伝えることができています。また、手紙やビデオメッセージなどが来た場合には、返信の支援をするなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や関係性に配慮しながら、その時々状況に合わせて居場所やテーブル席は柔軟に対応しています。	入居者様同士身近な関係性となり、お互い声掛け合い車椅子を押して下さったり、ひざ掛けをさりげなく準備、洋服のボタンをつめて下さったりと、日常的になっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍前は、ボランティアで行事に参加くださったり、野菜やおやつを差し入れをして下さる様な関係でもあります。	電話での相談を受けたり、関係機関への橋渡しの役割にもなるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で会話や表情で意向を汲み取るように努めています。声掛けの仕方にも答えやすいような問い掛けにするなど工夫しています。	日常の中の何気ない言葉や会話、表情の中にも、意向のヒントがあることを意識しています。また、ご家族にお尋ねする事にも努めています。	入居者の歴史を家族に作成してもらい、入居者の生活歴の把握に努めている。また、入居者の意向が確認しやすいように、入浴や散歩などは個別に対応する様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴、今までの暮らし方については、ご家族にも協力頂きながら、センター方式等を利用して把握に努めています。	ご入居前までにたくさんの情報を得るように努めています。ご入居後も生活を支援する中で疑問に思った事があればご家族にお尋ねするなどしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや最近のご本人の様子などで、お一人お一人の心身状態に応じて、日中にも臥床の時間を取り入れるなどしています。	日々の申し送りやその日のご本人の状態に応じて、お一人お一人に応じた過ごし方をして頂く様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめにご本人やご家族の意向の確認を行うように努め、全体会議やケア会議等で話し合い検討し合える流れができています。	ご本人、ご家族、介護士、看護師だけでなく医師、薬剤師などの意見も取り入れ検討する様に努め、必要に応じて見直しも行っています。	本人、家族の意向及び各専門職の意見を反映した介護計画を作成している。計画の話し合いに参加できない職員からは、事前に意見を聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に沿った気づきや発見、ケアチェックも一緒に出来るような内容になっています。	介護計画に沿った記録内容で、日々の気づきや工夫について全スタッフが情報の共有が出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族にも相談をしながら、ニーズの把握に努め、医師、薬剤師など多方面からもアドバイスを頂き、様々なサービス支援を受けるように努めています。	積極的にニーズの把握に努め、ご本人ご家族に寄り添い、希望に応じて柔軟なサービス支援が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は積極的に外に出る機会がありました。ご自宅の近所のお散歩では知り合いと偶然出会いご本人から声掛けをされる場面もありました。	コロナ禍前は、知人、近隣の保育園、ボランティア様々な訪問がっており、共にご本人を支える関係も出ていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望や心身状態に応じて他の医療機関を受診出来る体制となっています。ご家族と協力しながら受診も行っています。	かかりつけ医への受診をされている方もおられました。その際は心身の状態の報告を細やかにいき、スムーズに診察できるよう連携も行っていました。	かかりつけ医の往診があり、受診の際には、診察に必要な情報を伝えている。皮膚科や歯科などは希望に応じて受診することが出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の個人記録は、看護師目線でのアドバイスや注意点を記載し、更には毎週の診察へつながるように努めています。	看護職も介護職と同じ業務内容を行っており、早期発見へつながり、また様々な内容の検討がよりスムーズに進みやすい体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の医療機関に入院出来る体制も出来ており、入院しても主治医が変わらない事で不安なく、情報の共有も出来、入退院も更にスムーズに出来ています。	主治医の医療機関に入院出来る体制も出来ており、入院しても主治医が変わらない事で不安なく、情報の共有も出来、入退院も更にスムーズに出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時には、重度化、看取りについての説明や意向まで確認しています。ご家族は状態変化時は医師より都度説明を受ける事が出来、意向についてもその都度確認をするようにしています。	看取りの時期は、更にご家族、主治医、関係機関と連携をもとりながら、また、職員間でも情報を共有しながら、チームでの支援に努めています。	入居時に終末期に向けた説明を行い意向を確認している。また、重度化した場合には、医師から家族に説明している。終末期の対応については、職員の不安がないように体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制、対応マニュアルはいつでも職員の目に付く場所においており、緊急時に備えています。	コロナ禍前は定期的に消防署の救命救急士による心肺蘇生術、AEDの操作説明の講義を受けていました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの対応マニュアルも準備しています。コロナ禍でもあり、火災訓練は通報訓練のみを行いました。	区長様、民生委員様、地域の方々や避難場所などについて話し合う機会はありません。実際の訓練についてはコロナ禍でもあり、現在は実施できていません。	夜間を想定した訓練を年2回実施している。夜勤従事者に訓練の流れを説明しているが、夜勤者全員及び地域住民を含めた訓練はできていない状況である。	夜間を想定した訓練に夜勤者全員が参加するとともに、地域住民の参加も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として、尊重した声掛けや対応が出来るように努めています。親しさを乗り越えた子ども扱いにならないようにも努めています。	常に人生の大先輩として、尊重した声掛けや対応が出来るように努めています。新しい職員には一番大切にして欲しい事としても話をしています。	全体での会議や個別の面談で接遇に関する説明を実施し、対応について指導している。トイレや風呂などでは特にプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話、発語、表情、行動、動作等ででもご本人の希望や思いの把握ができるように努めています。	ご本人の希望や思いを表しやすいように、優しい雰囲気づくりや会話やコミュニケーションを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはありますが、ご本人のその日の状況やペースに合わせて、生活が出来るように努めています。	生活歴やご家族からの情報をもとに以前と変わらない、ご本人の望んだ生活が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、髭剃りなど日常的に身だしなみの支援をおこなっています。定期的に訪問美容もあり、カットだけでなく、カラーやパーマも対応して頂いています。	お化粧品、乳液、リップ、髪型等、ご本人の意向を大切にしながら支援しています。衣類についてもご本人に選んで頂く場面も作っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は綺麗な色彩の陶器、旬の野菜を食材に取り入れ、見た目でも、食事を楽しくして頂けるように努めています。	残存機能を把握して、又感染対策に努めながら、皮むき、下ごしらえ、つぎ分け、食器洗浄などそれぞれの場面で出番があり、力を発揮して頂いています。	年間を通じて献立を決めているが、近所から旬の野菜をもらった時は献立を変更するなど柔軟に対応している。また、誕生会では入居者の希望する食事を提供し、食器も多彩なものを使用するなど、食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量ともバイタル表で総合的に分かりやすく管理し、状態変化に応じて、好みの食べ物や飲み物に変更するなど柔軟に対応しています。夜間の水分補給の声掛け、水筒の準備も支援しています。	訪問医療による定期的な血液検査や毎月の体重測定などでも状態を把握できるように努めています。テーブル席には個人の水筒を準備して手軽に飲水が出来る環境となっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お1人お1人に合わせた対応で口腔ケアの支援を行い、口腔内の状態把握に努めています。また定期的に訪問歯科もあり、相談や指導も頂いています。	口腔ケアの拒否傾向の入居者様には、少しずつ無理なく歯科医師と相談しながら対応しています。訪問歯科では様々な相談指導を頂き、職員の日々の口腔ケアの支援に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで自然な排泄が出来るように、排泄表を基に排泄パターンを把握しながら声掛け介助しています。立位が困難な方も2人介助で対応しています。	安易に紙パンツや尿パットを使用しないで済むように、排泄表を基に排泄のパターンをの把握に努めて声掛け介助しています。	入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、夜間を含めたトイレ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には旬の野菜や繊維質の多い食材を取り入れ、テーブル席には入居者様毎の水筒を用意して、いつでも水分摂取が出来るようにし便秘予防に努めています。	入居者様毎の水筒などで1日の摂取量を把握し、摂取量が少ない方には、好みの飲料を準備しています。また、レクの時間には運動を積極的に取り入れ自然排便となるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日のご本人の体調や気分に応じて柔軟に対応しています。入浴が苦手な入居者様には一緒に歌を歌いながら、安心して頂くことで入浴されるように支援しています。	楽しみの一つでもある入浴は、個浴で約1時間程度かけてゆっくりして頂いています。着替え選び、全身状態の観察、爪切りまで対応し、職員と1対1で会話も弾む貴重な時間となっています。	週2~3回の入浴を行っている。入浴は個浴となっており、入居者のペースに応じて入浴できる時間帯を変更し、入居者に沿った対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に応じて、夜間の睡眠に支障のない程度の休息の時間を作っています。自室で臥床されたり、ソファで休息など思い思いに休息して頂いています。	季節や気温に応じて寝具の調節や、入床前にホットパックで寝具を温めたり、寒い時期でも心地よく入眠されるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はいつでも確認できるように個別にファイリングしています。追加変更薬については、都度毎回申し送りし、職員全員で確認できるようにしています。	週1回の薬剤師の訪問で副作用などの注意点を細かく確認できるように努めています。服薬介助については、職員2名で指差し確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技等を把握して、場面場面で出番を作るように支援しています。レクや誕生日会で特技のハーモニカを披露して頂く事もありました。	趣味や特技、生活歴を把握して生活の中に役割を持って頂く様にしています。歌やオルガンなどの特技の披露、また利用者様同士で囲碁を楽しまれる事もありました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の為、近隣の散歩やドライブ程度となっていますが、サンデッキや駐車場を利用して、夏祭り、餅つき等のイベント、家庭菜園をも楽しんで頂いています。	感染症予防の為、以前の様に外出や外食は出来ませんが、施設内の長いサンデッキを利用して、散歩しながら野外の空気を味わって頂くように支援しています。	コロナ禍以前と比べると外出は減っているが、ドライブなどを実施し、外出の機会を作るように努めている。また、テラスにて外気浴を行い、戸外へ出る機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折お支払い等で不安になられる方もおられ、都度、金庫にお預かり金があることを伝えて安心して頂いています。	今までの生活習慣やご本人の性格を考慮して、ご本人やご家族と相談して、お金を所持されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様より電話にて近況を伝え合ったり、お手紙や年賀はがきのやり取りの支援にも努めています。	遠方のご家族より電話にて近況を伝え合ったり、お手紙や年賀はがきのやり取りの支援にも努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間となるようにリビング中央にキッチンを配置し、調理中の音や匂いからより生活感を味わって頂けています。季節感も味わって頂けるようにソファから見えるサンデッキには草花を配置しています。	施設内には、季節感を感じて頂けるように季節に応じた花や飾り物で楽しんで頂いています。室温調節や加湿、定期的な換気にも努めています。	和室に節句人形を飾ったり、家族が持ってきた季節の花を飾るなど、季節を感じる事ができる環境となっている。また、壁には日頃の写真が多数飾られており、入居者のみでなく、家族も楽しめる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食席に関しては、入居者様の状況や気持ちを配慮しながら柔軟に対応しています。体調に応じて自室で休息、必要に応じて職員付き添いの元自室での食事摂取される事もあります。	リビング席、テレビ前、ソファ、リビング畳等それぞれの空間で思い思いに過ごして頂いています。自然と定位置もでき、それぞれに利用者様同士の会話も出ています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族様と相談しながら、使い慣れた椅子や馴染の家具、ご家族の写真なども持参して頂き、いつも安心した居心地の良い空間となるように努めています。	居室内にはご本人の趣味であったパッチワークの作品やご家族様の写真、またご自宅の仏壇の写真を貼ったりして、ご自宅の雰囲気により近づけるように工夫しています。	入居者及び家族の意向を取り入れ、写真や絵、家具など馴染みの物を持ち込むことができる。また、ベッドやタンスは入居前の状況に応じて配置し、居心地の良い空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全に自立支援できるようにリビングから居室やトイレなどが見渡せるような造りとなっています。サンデッキは施設全体の1周や廊下側からの半周と様々な散歩コースも喜んで頂いています。	施設内はバリアフリーの構造でトイレの場所や自室の場所には分かりやすく案内板や写真付きの表札をつけています。		